

写真甲子園 2校 意気込み

全国の高校生が写真の腕を競う「写真甲子園」の本戦に、東海ブロック代表として東邦（名東区）と名経大高蔵（瑞穂区）の写真部の生徒が出場する。東邦は2年連続2回目、高蔵は初出場。全国から479校が応募し、本戦には11ブロックから選ばれた18校が3人1組のチームで挑む。例年は北海道東川町で開かれるが、コロナ禍で2年連続でオンラインでの開催に。開会式は27日に行われる。

名経大高蔵 高校生の思い伝える



撮影した写真を確認する（右から）下畑さん、平野さん、藤田さん。瑞穂区の名経大高蔵高で

名経大高蔵は、三年の下畑希美さん（せ）と平野華乃音さん（せ）、藤田真穂さん（せ）がチームを組む。本戦出場は予想外だったといい「結果発表のホームページに名前が載っているのを見つけ、うそでしょと思った」と顔を見合わせて笑う。

カメラの基本的な使い方は先輩から学んだ。自分で設定を変えながら撮影を繰り返し、インスタグラムで「かっこいい」と思う作品を見て感性を磨いた。

コロナ禍で高校生活は制限と我慢の連続だった。修学旅行は中止になり、友だちとも気軽に遊べない。「ずっと何かに縛られている感じ」と平野さん。ブロック予選では、そ



名経大高蔵が東海ブロック審査に出した8枚組み写真「Last Quarter～満ち欠け～」の1枚

＝いずれも写真甲子園実行委提供

んなやりきれない気持ちと未来をあきらめたくないという思いを「光と闇」をテーマにした作品に込めた。下畑さんは「百パーセントではないけど、思いは伝えられたかな」と振り返る。

本戦に向け、藤田さんは「高校生の自分たちにしか撮れない写真があるはず。思いや感性を写真で表現したい」と意気込んだ。（斉藤和音）